

バルブや異形管の製造工程学ぶ

ダク異形管工業会 前澤工業・遠山鐵工所の工場見学

日本ダクタイトル異形管工業会はさきごろ、令和元年度研修会を開いた。会員企業などから52人が参加し、前澤工業の埼玉製造所と遠山鐵工所の久喜工場を見学。また、今年度上期の会務報告も行った。

前澤工業埼玉製造所では、手塚正三・所長が同製造所の概要を説明。参加者は、社員の案内で大口径・小口径バルブの製造工程を巡った。時間をかけて内部応力を除去する「枯らし」や、錆を取り除くプラスチック処理のほか、

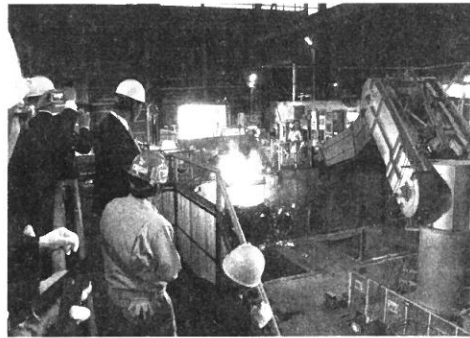
水門の製造工程や砂型から鑄造品を取り出す様子などを見学。高温で溶解した原材料(溶湯)が炉から流れ落ちる瞬間を目の当たりにした。「製品の刻印がマエサワになっていないのは、水が濁らないようにという願いを込めて濁点を抜いているため」といった解説も受けた。

続いて、遠山鐵工所の遠山善彦・社長から同社の事業内容の説明を受け、大口径ダクタイトル鑄鉄異形管の製造現場を見学した。同社では、鑄造用の模型製作やフライス盤を使った加工といった全てのプロセスを手作業で行っている。参加者は異形管を削って寸法を整える作業や、砂に樹脂と硬化剤を混ぜ、型板を使って造形していく工程を見学した。同社担当者

は、「模型を造型できる職人の数が少なく、技術継承が課題となっている。OJTを実施してい

るほか、ベトナムから研修生を受け入れている」と語った。

は、理事・広報委員の交代や7月に実施したトヨタ産業技術記念館の見学会について報告があった。



溶湯が注がれる瞬間を見学(前澤工業)



鑄造模型の造型は手作業(遠山鐵工所)